

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第34週 2025年8月18日（月）～2025年8月24日（日） 2025年8月28日作成

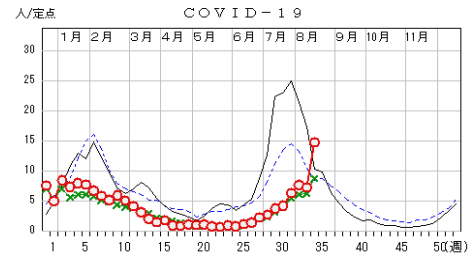
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）新型コロナウイルス感染症

第34週の報告数は754人で、前週より383人多く、定点当たりの報告数は14.78であった。

年齢別では、10歳未満（124人）、60～69歳（112人）、70～79歳（96人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（27.67）、県北保健所（27.00）、上五島保健所（21.00）であった。

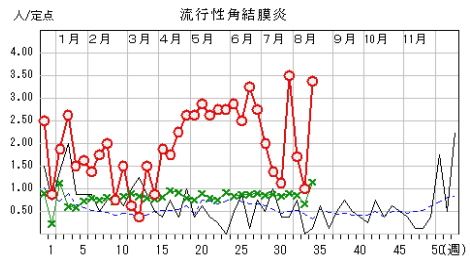


（2）流行性角結膜炎

第34週の報告数は27人で、前週より20人多く、定点当たりの報告数は3.38であった。

年齢別では、30～39歳（5人）、3歳（3人）、70歳以上（3人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（17.00）であった。

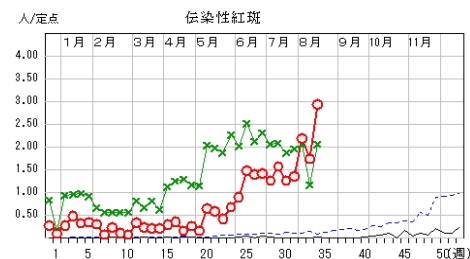


（3）伝染性紅斑

第34週の報告数は91人で、前週より37人多く、定点当たりの報告数は2.94であった。

年齢別では、5歳（18人）、4歳（16人）、2歳（12人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（6.60）、佐世保市保健所（5.25）であった。



○ 当年（長崎県） ー 前年（長崎県）
× 当年（全国） ー 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：7、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第34週の報告数は754人で、定点当たり報告数は14.78でした。地区別にみると、対馬地区（27.67）、県北地区（27.00）、上五島地区（21.00）は他の地区より多くなっています。ほとんどの地区で前週より増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【流行性角結膜炎】

第34週の報告数は27人で、定点当たりの報告数は3.38でした。地区別では、県南地区（17.00）が多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いため、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

【伝染性紅斑】

第34週の報告数は91人で定点当たり報告数は2.94となり、3週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中6保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

マダニ類が媒介する日本紅斑熱は、発熱・発疹が主な症状で、ダニの刺し口が多くの患者で認められます。県内では2025年第34週までに16件の報告があり、過去5年の同時期と比較して、多く報告があがっています。

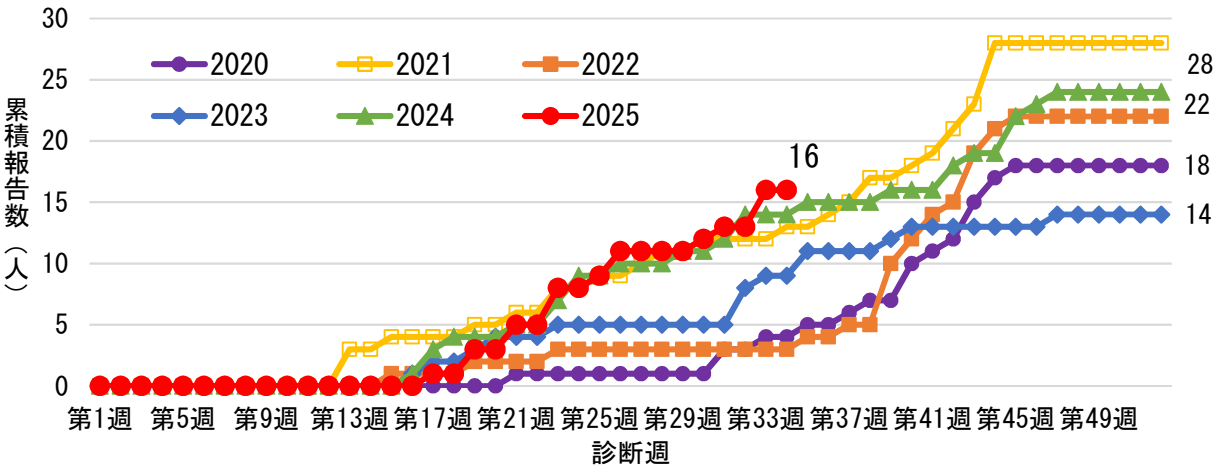
マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	8 (5)	6 (2)	6 (8)	13 (9)	13 (11)	9
日本紅斑熱	18 (4)	28 (13)	22 (3)	14 (9)	23 (14)	16
つつが虫病	11 (0)	14 (3)	7 (0)	15 (5)	11 (1)	0

※（ ）は第34週までの発生件数

長崎県における日本紅斑熱の診断週別累積患者報告数



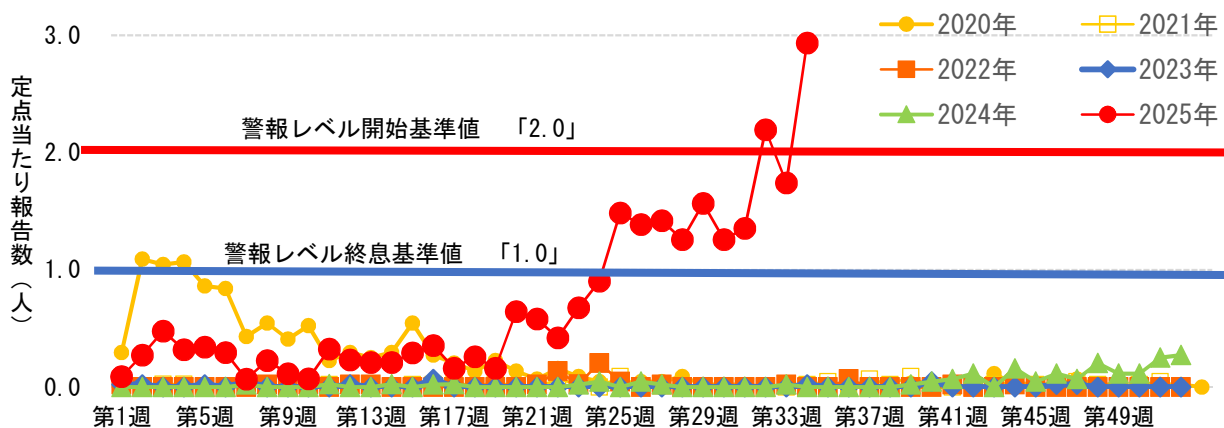
☆トピックス：伝染性紅斑が流行しています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

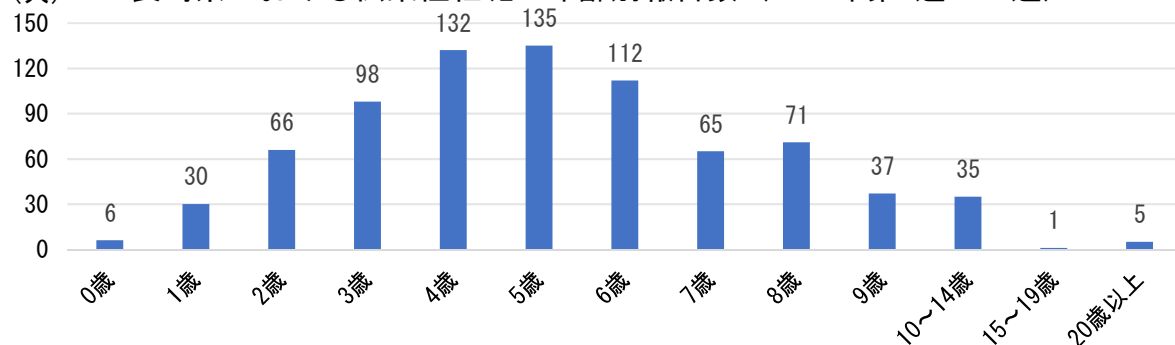
2025年第34週の報告数は91人で定点当たり報告数は2.94となり、現在の調査方法になった1999年以降最多となりました。第32週に警報レベル開始基準値「2.0」を超え、3週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別では、県央地区（6.60）、佐世保地区（5.25）、西彼地区（3.00）、県南地区（2.67）、壱岐地区（2.50）、長崎地区（2.33）は警報レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

長崎県における伝染性紅斑報告数の推移



長崎県における伝染性紅斑の年齢別報告数（2025年第1週～34週）

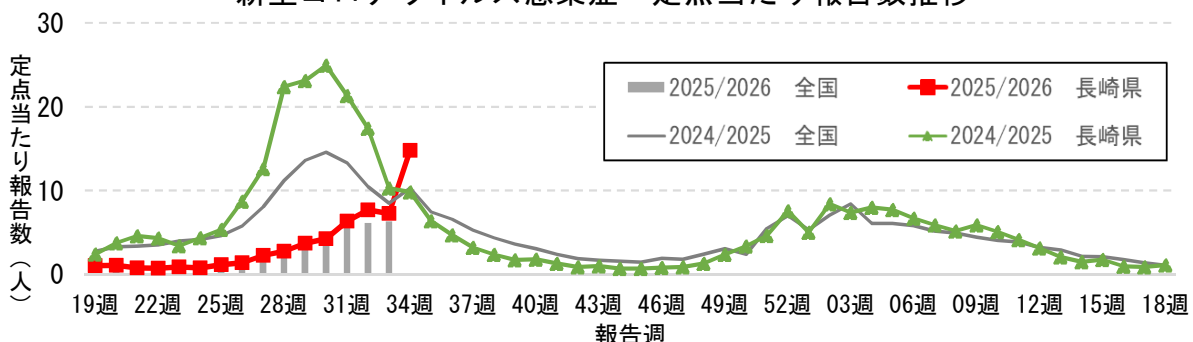


☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第34週の定点当たり報告数は「14.78」でした。地区別では、対馬地区（27.67）、県北地区（27.00）、上五島地区（21.00）が多くなっています。年代別にみると、10歳未満（16.4%）、60代（14.9%）が多くなっています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

新型コロナウイルス感染症 定点当たり報告数推移



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名） 女性（70代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：レジオネラ症 患者 女性（60代・1名）

5類感染症：梅毒 患者 男性（60代・1名）
 百日咳 患者 男性（10歳未満・4名、10代・2名、80代以上・1名）
 女性（10歳未満・5名、10代・2名、40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第29～34週、7/14～8/24)

疾患名	定 点 当 た り 患 者 数					
	29週	30週	31週	32週	33週	34週
	7/14～	7/21～	7/28～	8/4～	8/11～	8/18～
インフルエンザ	1.12	0.71	0.16	0.41	0.18	0.45
新型コロナウイルス感染症	3.72	4.25	6.33	7.67	7.27	14.78
RSウイルス感染症	0.33	0.26	0.42	0.52	0.42	0.71
咽頭結膜熱	0.20	0.32	0.39	0.58	0.23	0.45
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.20	1.65	2.10	2.35	1.16	1.42
感染性胃腸炎	3.40	2.39	3.06	2.81	1.29	2.13
水痘	0.23	0.10	0.16	0.23	0.26	0.48
手足口病	0.27	0.32	0.26	0.13	0.06	0.10
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.57	1.26	1.35	2.19	1.74	2.94
突発性発しん	0.37	0.39	0.42	0.45	0.16	0.39
ヘルパンギーナ	2.30	1.23	0.97	0.65	0.52	0.26
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.06	0.03	0.03	0.06	
急性出血性結膜炎	0.13		0.13	0.29		
流行性角結膜炎	1.38	1.13	3.50	1.71	1.00	3.38
細菌性髄膜炎	0.09					0.08
無菌性髄膜炎		0.08	0.08			0.08
マイコプラズマ肺炎	0.45	0.42	0.17	0.75	0.67	0.58
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	55.24	48.75	56.96	59.10	33.02	60.75

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第34週、8/18～8/24) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定 点 当 た り 患 者 数 (県 ・ 保 健 所 管 轄 別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.45	0.71	0.55			1.00	0.40		0.33		0.33
新型コロナウイルス感染症	14.78	18.00	10.55	16.67	10.00	12.38	15.00	27.00	3.67	21.00	27.67
RSウイルス感染症	0.71	0.25	1.33		2.33		1.00	1.50			
咽頭結膜熱	0.45				2.00	0.60	0.67	1.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.42	0.75	0.17		1.33	0.80	7.67	2.50		1.50	0.50
感染性胃腸炎	2.13	3.25	1.83	1.50	6.67	2.40		3.50			
水痘	0.48	0.50	0.50		0.67	1.00	0.67	0.50			
手足口病	0.10	0.25								1.00	
伝染性紅斑（リンゴ病）	2.94	5.25	2.33	2.50	3.00	6.60	2.67		0.50		
突発性発しん	0.39	1.25			0.33	0.80		1.00			
ヘルパンギーナ	0.26	0.50			0.33	0.40			1.00		0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	3.38		0.67		6.00	2.00	17.00				
細菌性髄膜炎	0.08						1.00				
無菌性髄膜炎	0.08					1.00					
マイコプラズマ肺炎	0.58	3.00	1.33								
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	60.75	75.29	82.73	37.67	89.00	62.50	33.80	58.67	7.00	36.00	43.00